

同推協だより

No.133

2023年 3月発行
神前地区同和教育推進協議会
Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp



特集 普段「おかしいなあ」「どうしてかなあ」と思っていること



近頃、マジョリティー特権という言葉が教えてもらいました。多数派の優越した権利のことだそうです。

私は以前、聴覚に障害を持つ友人に誘われて「手話祭り」という催し物に行きました。舞台演劇もありましたが、全ての台詞が手話だったと知り、「どうしよう。」と思っていたら、友人から「大丈夫だよ。通訳があるから。」と言われ、ほっとするやら、ちょっと情けない複雑な気持ちになりました。

普段の生活のほとんど多数派に属していると思っていた私の立ち位置が逆転したと感じました。周りを見回すと、ほとんどの参加者が手話を理解する人たちでした。その時の私は少数派（マイノリティー）でした。立場が少し変わっただけで疎外感を感じ不安になりました。

私が今まで感じてきた生活のしやすさは、多数派が便利に暮らせるようにしてきただけのことだと解りました。「多数派で勝った方が正しいことではない。」と言われたこともショックでした。みなさんはどのように考えますか？

川村まりさん（一般啓発委員）

差別心や偏見は、「思い込み」や「先入観」から持ってしまう。気にしていないとすぐに身についてしまいます。

私の中の先入観は「差別される」ということです。そのことからなかなか解き放されることなく生きてきました。しかし、「差別する」という自分からも解き放されなければ、「人間として恥ずかしいことだ」と最近思うようになりました。



私の中では、両方の自分が毎日戦っているのです。「あっ、また・・・」「あっ、しまった。」「あっ、やらかした。」のくり返しです。でも、平均寿命とやらにはあと少しあるから、そんな自分と向き合って生きていこうと思っています。

川森湧子さん（一般啓発委員）

30年以上前、子どもの中学校PTAで「同和研修をします。」のアナウンスに、知人は「中学校で、今更なんで『童話』なん？」と。その時私は、すぐに「『同和』だよ。職場で人権研修受講しているし、私の方がましや。」とっていました。

そして今年、同推協の部会に出席すると、初めて聞く「四同研？三人教？」。「四道県って、北海道と後何県かしら？」なんて思っていました。

私の同和の知識は、30年前の知人と同じように全く変わっていないと思いました。

川村真由美さん（曾井町）



「平等」と「公平」、よく似ている良いイメージの言葉です。逆に「不平等」と「不公平」は、何となくよくないイメージを感じます。



さて、昨年のことになりますが、男性から女性へ性別を転換したスポーツ選手が話題になりました。

結論から言うと、この選手は女性として大会に参加できたのですが、もとは男性だったので力も強く、私は不公平なんじゃないかと感じました。一方で、性転換で女性になったのだから、女性として参加できるのは当然という考え方もあります。もし自分が選手だったら、腑に落ちないかもしれません。

みなさんだったらどう考えますか。

武藤 清さん（一般啓発委員）

ある地区懇談会で、「差別はいけないって頭では分かっているけど、悪気もなく差別してしまうことってありますよね。」と、言う、

「それじゃ、差別しないっていうのは、どういうことですか。」

と、聞かれました。答えに詰まり、「考えてみます。」

としか、答えられませんでした。そして、考えてみました。

「どの差別がいけないという前に、人を傷つけることは、どんなことでも、どんな言葉でもよくない。」と思います。

人により、傷つく言葉はそれぞれ違うと思います。もし会話の中で、誰かの表情が少しでも変わったらそれに気付いて、どの言葉が問題なのか、何を考えているのだろうかと思える人になりたいと思っています。

それにはやはり、いろいろな人と話し合いを続けることが一番だと思っています。

「継続は力なり。」です。

林崎恵美子さん（一般啓発委員）



地震など災害があるときは地域のつながり、絆が大切だと聞きます。コロナ禍の今はどうなのでしょう？

感染防止のために、人との関わりが減り、地域行事なども形が変わりつつあるように思います。しかし、その中でも、行事を「する」「しない」の決断は、各地区団体が思い悩んだ結果なのでしょうが、「おはようのあいさつ運動は○」で、「地区懇談会は×」、廃品回収は×」「亥の子は○」のように「あれっ？」と思うこともあります。

家族葬が増え、「年賀はがき、ご遠慮します」のはがきで知ること多くなりました。時代の流れなのかもしれませんが、何を基準にして決めているのか、誰にも分からないようになってきて、地域のつながりや絆はどこへ思ってしまうのは私だけでしょうか。



そんな中、私事ですが、私の家業をやめる話になったとき知り合いからいろいろ気にかけてもらっていると分かり、地域のつながりや絆を感じる出来事がありました。「困ったときはお互い様」世間の情を感じることができ、うれしい気持ちになりました。改めて私自身が、つながりや絆を大切にしていこうと思いました。

田中ゆかりさん（一般啓発委員）

2022年度「同推協のつどい」を終えて

2月5日(日)、寺方児童集会所において、2022年度「神前同推協のつどい」が開催されました。今年は恒例の各町団体からの報告以外に「パネルディスカッション」が行われました。



菅原町の取り組みで報告された人権・同和問題に無関心な実態は、程度の違いこそあれどこの地区にもあるのだと思います。だからこそ、各地区の懇談会を充実させなければならないし、主催する役員の方や啓発委員の研修をしっかりと行わなければならないと思いました。そして、研修会の中で、差別の実態、同推協や啓発委員研修会の意義を確認できるといういなあと感じました。(中略あり)

「何も知らない人が部落差別について知らされると変に意識する」のは、部落差別の不当性について学ぶ機会がなかったからだと思います。「学ばないことで、人は簡単に差別する側」になってしまうのです。部落の人に嫌な思いをさせられたという人は、「部落差別を受けてきた人」、「就職・結婚において夢を阻まれた人」、「部落差別のために命を奪われた人やその家族」の気持ちに思いをはせてください。地域のみなさんは、懇談会の主旨や啓発の意味についてしっかりと学び、まずは、自分自身の差別心に向き合ってほしいと思います。近藤会長の「学ぶことで、自分の生き方が変わる。」という言葉を考えてみてほしいと思います。(中略あり)

【人権クイズ】さて問題です。「お父さんと『息子』が道を歩いていて交通事故にあいました。お父さんは即死。『息子』は大けがを負って救急車で病院に運ばれました。すると、その病院の有能な外科医が、意識のない『息子』を見た途端、『息子よ。お～お、息子よ。』と叫びました。さて、この有能な外科医と『息子』とは、どんな関係なのでしょう。答は、このページの一番下に書いてあります。



私には、以前からずっと心に引っかかっていることがあります。それは以前大相撲大阪場所で大相撲力士に府知事賞を授与しようと、女性府知事が土俵に上がろうとした際に、女性だからという理由で、土俵に上がれませんでした。相撲協会は、「女人禁制は伝統だから」と言います。それから女性は、一度も土俵に上がることはありませんでした。その後のアンケートでも、半数以上が「伝統だから仕方がない。」という意見でした。伝統やしきたりとはいったい何なのでしょう。時代が変われば人の考えも変わります。人が決めたことは、人が変えられるはず。いろいろな意見があると思いますが、みなさんはどう思われるでしょうか。大森嘉春さん(一般啓発委員)



2022年度 課題別問題別研究大会に参加して

1月22日(日)、四日市市文化会館他を会場として、2022年度四同研課題別問題別研究大会が開催され、神前同推協から5名が参加しました。

「とまり木のまちづくり ～継承とチャレンジ～」 講師 山本周平さん(大阪府浅香) まちづくりには、高齢者、子ども、障害のある方を支え合う仕組みづくりと、それを企画する人が必要です。生きがい、生活、居場所等実態調査から課題を明らかにして、「地域づくりプロジェクト」を立ち上げ、「なんでも、誰でも、お気軽に相談を」と「おしゃべり喫茶」や各種イベントの開催をしたりして取り組んでいるということでした。神前でも各町で高齢者の集まりを開いていますが、更に「人権のまち」として、連合自治会や地区社協、地区同推協が連携を密にして、「住みたい、住みよい町づくり」に取り組んでいきたいと思いました。
「まちづくり 4つの理念」
1 生き生きとした人間の活動がある、人間のまち 2 ふれあい助け合う、住民自治のまち
3 みんなのふるさと、水と緑のまち 4 一人一人を大切に、教育と文化のまち

「部落差別の現実から自分自身に問うこと」 講師 原田朋記さん(ヒューリアみえ) 自分の周りに部落出身者であることについて相談できる人がいると、部落問題に対して向き合い続けていられたという話を聞き、何でも気軽に話せる人が周りにいることの大切さを再認識しました。さらに、最近では差別が見えにくくなっていると思っていましたが、自分には見えなくても被差別部落の方々にとっては、しっかり見えているのではないのでしょうか。自分が見えにくくなっていることを理由に、差別問題に無関心にならないようにしたいと思いました。

【人権クイズの答え】 正解は「母親」です。「有能な外科医」と聞くと、そのお医者さんを「男性」と思い込んでいませんか。思い込みは知らない間に刷り込まれます。気を付けましょう。

人権カルタコーナー 今月の1枚!

「関係ない」という言い方は、とても無責任な言い方です。言われた方は「どうでもいい。」と聞こえます。差別を「人ごと」と思っていると、いつの間にか自分に降りかかってくるものです。人権や差別の問題は常に「自分ごと」なのです。多くの方が「関係ない」と言っている間に、いつの間にか自分が差別されているものです。



わたしには関係ないわと逃げないで

部落差別はいわれのない差別です。つまり、差別しようと思っている人にとっては、差別する理由は何でも構わないのです。どんな差別でも被差別の方を守ることが、自分の身を守ることにつながります。障がい者差別、男女差別、外国人差別、等、「全ての差別で差別されている人をなくすこと」が、「私に関係のあること」なのだと思えます。

同推協啓発委員 募集中

啓発委員になっていただける方は市民センターロビーに設置してあるポストにお名前を記入して投函してください。(申込用紙は置いてあります。)お電話でも、FAX、メールでも構いません。啓発委員になっていただければ委員研修やイベントに参加したり、同推協の活動内容のお知らせを送らせてもらったりします。

【問合せ先】神前地区市民センター内 団体事務局 Tel・fax 327-1501 (受付午後)

Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp